

今を変えよう!!

私たちの声で!!

くらし・平和・政治・県民集会 in松本



《ミニ講演をする中央市民連合の菱山南帆子さん》

長野県版
第520号

2024年6月15日

治安維持法国賠同盟

長野県本部

〒380-8790

長野市県町593

高校会館内

連絡 竹村利幸方

TEL・026-226-0854

FAX・026-266-0864

一時も早く市民と野党の共闘を!!
次期総選挙で自公政治にサヨナラ



《野党3党と市民連合の代表》

訴えました。

来賓として野党3党の代表があいさつを。立憲民主党からは県連代表の杉尾秀哉氏、日本共産党からは前参院議員の武田良介氏、社会民主党の副党首大椿裕子氏が、それぞれ岸田政権の金権腐敗政治をただす企業団体献金の廃止など厳しく指摘。

集会の終盤では、野党3党と市民連合の代表が一緒に登壇し、市民と野党の共闘を実現するために団結と信頼を強めることを誓いあいました。

集会終了後、参加者はプラカードや横断幕を掲げ、「政治を変えよう」と声をあげ、市中パレードを行いました。

41人の呼びかけ人と信州市民連合が主催する「今を変えよう 私たちの声でーくらし・平和・政治を『松本』県民集会が、6月2日松本駅前広場で開催されました。およそ700人が県下各地から参加しました。

善光寺白蓮坊の若麻績敏住職の開会のあいさつで始まり、集会メインのミニ講演では、中央市民連合の菱山南帆子さんが「改憲の策謀を許さず、人権意識を大切に、国民本位の政治を取り戻そう」と

全国大会

大軍拡「戦争する国づくり」許すな!!

2万人同盟へ 会員と署名の自主目標達成を!

県本部会長 大石 信之



19日・20日の2日間、東京の「平和と労働センター」で治安維持法・国賠同盟の第41回全国大会が開催されました。全国から123人の代表が参加。長野県からは、大石・竹村・

沢田・磯野・網島の5名が参加しました。

開会冒頭、柳瀬精名誉会長はじめ亡くなられた方々への黙とうを捧げた後、吉田万三中央本部会長が主催者あいさつを行いました。今回の大会は、大きな節目の治安維持法100年を来年に開かれるものであり、「裏金問題とその対応のいい加減さに、岸田自公政権の支持率は低迷し続けているが、武器輸出の解禁、経済安保を口実にした国民監視の拡大、自衛隊の米軍指揮下への再編、沖縄・南西諸島の軍事要塞化など、大軍拡・戦争国への動きを着々と進めている。『ふたたび戦争と暗黒政治を許さない』を旗印に掲げる同盟の奮闘が求められている」と強調されました。来賓として日本共産党山添拓参議院議員が連帯と激励のあいさつをおこないました。

次いで、田中事務局長から、運動方針(案)の提案が行われました。今大会の任務は 第①に岸田自公政権の「戦争する国



開会挨拶する吉田会長

づくり」の暴走を食い止め、市民と野党の本気の共闘で、自公政権を終わらせるたたかいの推進。第②は、この間の諸活動を総括し、成果と教訓を明らかにし、次期大会までの2年間の方針の確立。第③は、中央および都道府県支部の確立、充実。第④に、新しいテキスト「治安維持法とは何か」の一大学習運動と普及。第⑤は、ジェンダー平等と世代継承を重視し、方針の実践の先頭に立つ中央役員の選出が提起されました。

討論を挟んで、渡辺治一橋大学名誉教授が「治安維持法施行100年と日本国憲法」と題して、講演を行いました。「同盟が掲げた『再び戦争と暗黒政治を許さない』が一層切迫した課題となっているが、現代は治安維持法の時代と大きな違いも 戦後79年にわたる私たちの闘いは、戦争への道を阻んできたことに確信を持つ」と、私たちに確信と展望を与えてくれる内容でした。

討論は、2日間で44人から全国各地の教訓に満ちた活動報告されました。北海道・千葉・埼玉・新潟など、会員拡大の自主目標を達成した県本部の取り組みで共通する内容は、第1に、情勢と結びつけた同盟運動の必要性和意義について論議して目標・期日を明確にして取り組んだこと。第2に、支部長・幹部役員が実践の先頭に立ったこと。第3に、支部の活動強化。中央・県の方針を伝えきること。第4は 多彩な企画・DVD上映・フィールドワークなど楽しい・ワクワクする催しと会員拡大を結びつけたことです。長野県の活動の前進に欠かすことのできない教訓として受け止めています。

討論後、すべての議案は、満場の一致の賛成で採決されました。そして、「戦争する国づくりに反対」と「連舩都知事誕生に全国の支援を!」の二つの特別決議を採択し終了しました。

大会参加記

渡辺治講演に感動と確信

長水北支部 網島信一



大会第1日目に、一橋大学名誉教授の渡辺治さんが「治安維持法公布100年と日本国憲法」というタイトルで特別記念講演をしてくださいました。その中で「1900年に制定した『治安警察法下』でも、労働組合運動・大規模小作争議・農民組合などの運動の息の根を止める事が出来なく、『秘密結社』として日本共産党の結成がつけられ、『新しい社会運動を一網打尽にする法律』をつくる必要に迫られて1925年に『治安維持法』という悪法をつくった。それは思想そのものを取り締まる法律であり、明治憲法（大日本帝国憲法）だけが持っていた『勅令』という天皇の権限により『法律を飛び越えて改悪できる』仕組みを利用した。

1928年に、最高刑を『死刑もしくは無期懲役』にして日本共産党員を中心に目的遂行罪で検挙したのも『議会で廃案になった法案』を緊急勅令で成立させたものである。どんな悪法がつくられても民衆の闘いを止める事が出来ないことが示されている」など多くの事を教えて下さいました。

今回の大会の中では「支部を中心にした学習運動を強める」事を提起されましたが、その大切さを教えられた企画でした。支部中心の活動の大きな成果をあげてきた北海道・千葉・埼玉・新潟などとりくみの教訓が、長野でも重要な参考になります。大いに頑張りたいという気持ちだが、ふつふつと湧いてくる全国大会でした。

県内の動き

原発ゼロ長野県連絡会が学習と総会

原発ゼロ自然エネルギーへの転換を求める県連絡会は、6月16日長野市で総会と学習会を開催しました。学習会では、会の世話人である大日方聡夫さん（物理学者）が「未来のために学び、伝え、替えていこう」と題して講演されました。「まめつてえ鬼無里」のとりくみを紹介しながら、自然と人類の共生を強く訴えられました。

総会は、当面する運動方針と役員体制を決定しました。



6月23日、長野市の高校教育会館で県革新懇が総会と講演会を開催しました。第1部は、信毎論説顧問の丸山貢一さん（前論説主幹）が「軍事と科学」と題して講演されました。第2次大戦でアメリカのマンハッタン計画（原爆開発）に科学者が動員されたことへのオッペンハイマーの苦悩など紹介しながら、今、自公政権下ですすめられる軍事・産業・学術の複合化の危険性を厳しく批判しました。また、学術会議の任命拒否や法人化問題もこうした科学の軍事化問題の表れと指摘しました。講演には50名が参加し熱心に聞き入りました。

前信毎論説主幹 丸山貢一さんが講演
戦争する国・軍産学一体化を厳しく批判

横浜事件「首謀者」 細川嘉六が語るわが人生

「河童自伝 生い立ちの記」「放談」 獄中書簡

前東御市議会議員 平林千秋

太平洋戦争戦時下、治安維持法による大規模な言論弾圧事件「横浜事件」。その「首謀者」とされた進歩的政治学者・ジャーナリストである細川嘉六が語った「自伝」です。片山潜、河上肇、市川正一、はては近衛文麿など実に多彩な交友や時々の論文執筆の思い、妻への思いやり、過酷な弾圧に屈しない思いに満ちた獄中書簡：波乱に満ちた人生と学問への確信が描き出されています。細川は富山県生れ。東京帝国大学、読売新聞記者をへて大原社会問題研究所に入り、米騒動、植民地問題研究で優れた論文を世に出してきました。太平洋戦争が勃発したものの1942年、雑誌『改造』に掲載した「世界史の動向と日本」で、日本が勢力下に置いたアジア諸国に対して民主主義にもとづく民族自決を尊重すべきだと主張したのでした。ところが陸軍報道部長が「共産主義の宣伝」と論難し、細川は治安維持法違反の疑いで検挙されました。これを契機にジャーナリスト・研究者60人以上が逮捕されました。細川は「共産党再建」を企む「首謀者」とされたのでした。当時の神奈川県特高警察がでっち上げた事件でした。細川は獄中で否認してたたかい抜き、当局が立証できなかったにもかかわらず終戦直後に執行猶予付きの有罪とされました。細川は不当抗拘禁と捜査に抗議して釈放を拒否。この経緯



について後に「私は、裁判所か国家が謝らない以上は、ここを死んでも出やせぬぞ。私は日本が民主主義的に平和な発展をすることだけを望んだ。それは民衆に基礎をおかなければだめなんだ。私は軍国主義的侵略に反対し、民

主主義を主張した。その主張しかもっていない私に、悪るかったと頭を下げよ、そうしたら出てやる」と語っていた（『ひろば』創刊号1947年4月）ことも本書で紹介されています。

この細川逮捕の一端が、いまNHKで放送中のテレビ小説「虎に翼」にも登場しました。5月中旬の第37話で、弁護士高等試験に合格したヒロイン猪爪寅子が研修で雲野六郎法律事務所勤務した場面。雲野弁護士がジャーナリストの言論弾圧事件を担当し、寅子の同僚で同事務所に勤務する「よね」に問題の『改造』8月号の論文「世界史の動向と日本」を示し、「急いで要約をつくってくれ」と指示するのです。そこには細川嘉六の名が……。史実は、「雲野弁護士」は海野晋吉弁護士で、細川は本書で「申し分なく立派な三輪、海野両氏が弁護にあたって居られるのですから、私の事件の内容はそれですから、悪意な曲解邪推を弄しない限り簡単明瞭であってずっと前に決着されておるべきはずのものです」と語っています。

細川は、戦後、日本共産党に入党し、戦後初の参議院選挙に出て当選、3年後にも再選され、共産党議員団の団長を務めました。マッカーサーの公職追放にあい、その後、アジア問題研究所を設立、進歩的情報を海外に発信する「ジャパンプレスサービス」社顧問など多方面で活躍、1962年に72歳で生涯を閉じました。本書表題の「河童」とは細川が好んで河童の絵を描いていたことにちなんだもの。先人の不屈の生きざまは、今に生きる私たちの胸を打つものがあります。

出版は「六花出版」 定価2420円（税込み）

東京都千代田区神田神保町1-28 電話03・3239・87
87 Fax03・3239・8788

長野県内の扱いは 平林千秋へ080・1096・2883

共産党上小更埴地区委員会 千三八六・〇〇三一

上田市小牧一六二一四 電話0二六八・二二・二六三一FAX
〇二六八・二二・二七九二